

# 医学教育研究成果（2020年度）の概要報告書

2021年4月30日

公益財団法人 医学教育振興財団 理事長 殿

研究代表者

大学名 弘前大学大学院医学研究科

職名 救急・災害医学講座 助教

氏名 野村 理

研究課題（和名）	日本語版 Script Concordance Test の開発と妥当性検証
研究課題（英名）	Development and Validation of Japanese Version of Script Concordance Test
研究期間	2020年4月1日～2022年3月31日
研究の概要:	<p><b>Script Concordance Test for Pediatric Emergency Medicine (SCT for PEM)</b>  <b>翻訳による日本語版 SCT for PEM の開発</b></p> <p>北米で開発された小児救急領域に特化した臨床推論能力評価ツールである SCT for PEM 翻訳について、開発者の Carriere より許可を得たのちに、Cross-Cultural Survey Guidelines (Survey Research Center, 2016) が推奨する「翻訳・評価・判定・パイロット研究」の体系化された専門家チームで行う手法 (TRAPD Method) を用いて日本語版 SCT for PEM パイロットを開発した (図 1)。</p> <p><b>日本語版 SCT for PEM の妥当性検証</b></p> <p>1) パイロット調査</p> <p>開発された日本語版 SCT for PEM の表面妥当性を検証するために、小児救急医療に専従する指導医 15 名を対象者としパイロット調査を実施した。15 名の指導医の解答傾向より日本語版 SCT for PEM の表面妥当性は適切と考えられた。参加者からフィードバックのあった日本の医療事情に合致しない点 (抗菌薬や緊急輸血の種別等) について修正し日本語版 SCT for PEM の開発を確定した。38 症例について計 60 の設問が設定された (図 2)。また、SCT の開発ガイドラインに準じて、SCT for PEM の配点表を作成した。</p> <p>2) 妥当性検証</p> <p>妥当性検証のためのエビデンスを収集するために、小児医学および救急医学を専攻する若手医師 75 名に日本語版 SCT for PEM データ収集セッションに参加してもらい、1 時間の制限時間に置いて日本語版 SCT for PEM 回答した。すべての参加者は制限時間内に回答を終えることができた。パイロット研究をもとに作成した配点表をもとにスコアリングを実施し、卒後年数とスコアとの関連について相関解析を行ったところ、卒後年数とスコアに正の相関を認めた。また、参加者は日本語版 SCT for PEM を実際の臨床問題に即したものでありと考えており、テストを完了するために十分な時間があったと回答し、適切な難易度の評価ツールであると考えられた。</p> <p>日本の医療事情に適合する小児救急領域に特化した臨床推論能力評価ツールである SCT for PEM を開発した。臨床経験年数とスコアとの関連も統計学的に示され、小児救急医の臨床推論能力を効果的に測定できるものと考えられた。難易度等の活用可能性についても十分なものと判断された。</p>



図 1. TRAPD Method

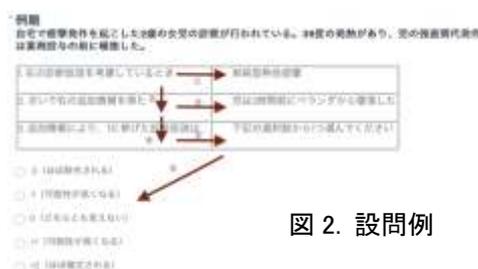


図 2. 設問例